

各講座のシラバス

◎シラバス開発 13科目

	DX養成科目	区別	利活用コース ソリューション コース	時数	受講 人数	DX養成科目の概要
1	阿蘇×DX I (ロジカルシンキング)	基礎編	共通コース	36	18	DXやテクノロジー導入のベースとなる、ロジカルシンキング、現場の観察・分析手法、課題解決のためのフレームワークを、フィールドワークも交えながら習得する
2	SNS&PR実践 I	基礎編	利活用 コース	36	10	プレスリリースの書き方、SNS (Instagram、Facebook、Twitterなど) の運用方法、投稿内容 (写真撮り、文書作成)、SNS広告のかけ方 (A/Bテストや予算策定) を学ぶ
3	ドローン利活用	実践編	共通コース	36	12	ドローンの動作原理を学んだうえで、手動・自動操縦の実習をおこなう 取得したデータについて観光・農業での活用の具体例を学び、操縦士免許を取得する
4	メタバース開発実践	実践編	共通コース	36	12	学生は、Blender (3DCGアニメーションを作成アプリケーション) の基本機能をまなび、簡単なモデルを作ることができるようになる
5	ビジネス開発演習	実践編	利活用コース	36	10	ビジネスへの理解を深めるべく、ビジネスモデルの事例を知る。また任意の企業を選んで「経営とテクノロジーの活用」の観点からより深いビジネス分析をし、レポートにまとめる。
6	セキュリティ診断実践	実践編	ソリュー ション コース	72	20	学生は、Webアプリケーションにどんな脅威があるのか、どうすれば安全なWebアプリケーションを開発することができるのかについて、実践を通じて学ぶことができる。
7	AI・IoTとデータ実践	実践編	ソリュー ション コース	72	20	学生はデータを利活用する一連の作業 (データ収集・分析・モデル作成・評価) を実践する手法を学ぶ。
8	動画制作・編集	応用編	利活用 コース	36	20	プロモーションの一環として日常的にSNSやYoutubeにアップする動画、企業プロモーションの一環としてSNSやYouTubeに掲載できる動画制作を行う。
9	ITビジネス基礎	基礎編	共通コース	36	20	これからはあらゆるビジネスの現場でテクノロジー (IT利活用) とマーケティングの力が不可欠となるため、その基礎を習得する。
10	SNS&PR実践 II	実践編	利活用 コース	36	10	企業活動および観光PR活動の一連の流れを実践的に経験することで、全体像を把握し、実践力を身に付ける。移り変わりの早いSNSのトレンドを掴みながら、デザイン画像も活用できること。
11	テクノロジーと業務効率化	応用編	ソリュー ション コース	36	20	業務効率化の目的とゴールを学び、各種ツール実習をおこなう (OCR・RPA・リモート接続・クラウドデータアクセス管理ツールなど)
12	阿蘇×DX II (プロジェクト型実践)	実践編	共通コース	36	20	DXやテクノロジー導入のケーススタディとして、現場観察・課題抽出から分析を行い、仮説を立ててモックアップを作成し、提案をまとめるという一連の行程を実践する
13	観光ビジネスDX (プロジェクト型)	実践編	利活用 コース	36	10	観光ビジネス (特に宿泊業とDMO) の現場において実際に使用されているITツールについて、その種類や役割、実際の使い方を習得する。
				540	202	

■各シラバス

	DX養成科目	区別	利活用コース ソリューションコース	時数	受講 人数	DX養成科目の概要	シラバス担当
I	阿蘇×DX I (ロジカルシンキング)	基礎編	共通コース	36	18	DXやテクノロジー導入のベースとなる、ロジカルシンキング、現場の観察・分析手法、課題解決のためのフレームワークを、フィールドワークも交えながら習得する	馬場 博史

ねらい：DXの概論について基礎知識を得ることができ、また多様化・複雑化した社会での問題解決アプローチであるロジカルシンキング・デザイン思考を用い、ワークショップで実践することでロジカルシンキング・デザイン思考のマインドとプロセスを体感することができる。また学生は、南阿蘇の地域特性にあわせて対象とする問題と解決するための課題をロジカルシンキング・デザイン思考で整理し発表できる。

到達目標：①DXの概論を理解し説明できることを目標とする。

②ロジカルシンキング・デザイン思考プロセスを用い自分の考えをまとめ表現することができる

1. DXとは
2. 南阿蘇の地域特性を理解する
3. ロジカルシンキング・デザイン思考の概要とプロセス
4. 実習：プロジェクト実施
5. シェアと振り返り

時数	授業内容	時数	授業内容
1	DXの背景・考え方、	19	共感マップ作製・共有
2	問題着想&個人ワーク	20	
3	個人ワーク成果共有	21	チーム問題着想・選定
4	DX事例の紹介	22	
5	南阿蘇の地域特性	23	チーム問題可視化・共有
6	ヒアリング現場の情報インプット	24	
7	チーム編成と情報収集のための観察・体験・ヒアリング準備	25	可視化見直し、帰納法、演繹法、3段階法問題の全体像ピラミッドワーク
8		26	
9	観察・体験・インタビュー実施①-1	27	問題の全体像ピラミッド見直し、共有
10		28	
11	観察・体験・インタビュー実施①-2	29	ロジックツリー、MECE、問題分析/本質的原因探索
12		30	
13	観察・体験・インタビュー実施②-1	31	課題化、共有
14		32	
15	観察・体験・インタビュー実施②-2	33	阿蘇×DX①の振り返りとサマリー
16		34	
17	観察・体験・ヒアリング（農業×2, 観光×2）振り返りチーム内整理共有、共感マップ作製	35	阿蘇×DX②に向けてのインプット
18		36	

成績評価	グループ課題演習 60%、 受講態度30%、 出席率80%以上 10%
------	-------------------------------------

■各シラバス

	DX養成科目	区別	利活用コース ソリューションコース	時数	受講 人数	DX養成科目の概要	シラバス担当
2	SNS & PR実践 I	基礎編	利活用 コース	36	10	プレスリリースの書き方、SNS (Instagram、Facebook、Twitterなど) の運用方法、投稿内容 (写真撮り、文書作成)、SNS広告のかけ方 (A/Bテストや予算策定) を学ぶ	廣瀬 実華

ねらい：企業活動および観光 PR 活動で実際に使われることの多い「プレスリリース」「SNS 運用」「SNS 広告」について、一連の流れを実践的に経験することで、全体像を把握し、実践力を身に付けること。

到達目標：①企業広報の役割について理解する。

②プレスリリースの書き方を習得する。

③SNS について理解し、ビジネス利用目的の日々の運用から広告運用までが出来る様になる。

④スマホでの写真撮影ポイントを理解し、簡単な画像デザインができること。

- インTRODクシヨン (企業広報の役割と必須性・現状について)
- プレスリリースについて
- SNS とは
- SNS 運用と写真撮影
- SNS 広告運用

時数	授業内容	時数	授業内容
1	INTRODUCTION	19	SNS 運用と写真撮影④ (実践)
2	(企業広報の役割と必須性・現状について)	20	
3	プレスリリースについて	21	SNS 運用と写真撮影⑤ (実践)
4	(プレスリリースの役割とメディア露出の関係性)	22	
5	プレスリリースについて	23	SNS 運用と写真撮影⑥ (実践)
6	(実践)	24	
7	プレスリリースについて	25	SNS と広告運用① (実践)
8	(成果物発表)	26	
9	SNS とは	27	SNS と広告運用② (実践)
10	(SNS 概要についてINTRODUCTION)	28	
11	SNS とは	29	SNS と広告運用② (実践)
12	(SNS マーケットのまとめ資料作成)	30	
13	SNS 運用と写真撮影① (実践)	31	SNS と広告運用③ (実践)
14		32	
15	SNS 運用と写真撮影② (実践)	33	最終レポート作成
16		34	
17	SNS 運用と写真撮影③ (実践)	35	最終レポート発表
18		36	

成績評価	出欠・受講態度：40% / 成果物：40% / レポート：20%
------	----------------------------------

■各シラバス

	DX養成科目	区別	利活用コース ソリューション コース	時数	受講 人数	DX養成科目の概要	シラバス担当
3	ドローン利活用	実践編	共通コース	36	12	ドローンの動作原理を学んだうえで、手動・自動操縦の実習をおこなう 取得したデータについて観光・農業での活用の具体例を学び、操縦士免許を取得する	矢尾板 亨

ねらい：学生は、ドローンの動作原理を学んだうえで、手動・自動操縦の操作を実習し、操縦できるようになる
到達目標：①ドローン操縦士免許（目視外飛行）における学科試験に合格する
②ドローン操縦士免許（目視外飛行）における実技試験に合格する

1. ドローンの動作原理
2. ドローンの産業利用
3. ドローン飛行にあたっての法令と申請手続き
4. 手動操作の準備とその実践
5. 自動操作の準備とその実践
6. 免許認定試験

時数	授業内容	時数	授業内容
1	シラバスの説明・環境構築	19	ドローン(GPS無)の操作
2	スマート農業の状況とドローンの活用状況	20	ドローン(GPS無)の操作
3	ドローンの基本操作方法	21	ドローン(GPS無)の操作
4	ドローンの作動確認・始動・停止手順	22	ドローン(GPS無)の操作
5	自動航行による農業散布	23	ドローン(GPS無)の操作
6	自動航行による農業散布	24	ドローン(GPS無)を使った操作練習
7	基本操作・ホバリング1	25	ドローン(GPS無)を使った操作練習
8	基本操作・ホバリング1	26	ドローン(GPS無)を使った定点移動飛行練習
9	自動航行ルート作成	27	ドローン(GPS無)を使った定点移動飛行練習
10	自動航行ルート作成	28	ドローン(GPS無)を使った定点移動飛行練習
11	ドローン飛行にあたっての法令順守	29	実技テスト
12	ドローン飛行にあたっての法令順守	30	実技テスト
13	ドローン飛行の事務的申請と報告	31	学科認定テスト
14	ドローン飛行の事務的申請と報告	32	学科認定テスト
15	筆記テスト	33	実技認定テスト
16	筆記テスト	34	実技認定テスト
17	基本操作・ホバリング2	35	まとめ
18	基本操作・ホバリング2	36	まとめ

成績評価	テスト又は課題提出 10% 出席率80%以上 10%	実践評価 70%	受講態度 10%
------	-------------------------------	----------	----------

■各シラバス

	DX養成科目	区別	利活用コース ソリューション コース	時数	受講 人数	DX養成科目の概要	シラバス担当
4	メタバース開発実践	実践編	共通コース	36	12	学生は、Blender（3DCGアニメーションを作成アプリケーション）の基本機能をまなび、簡単なモデルを作ることができるようになる	井上 直子

ねらい：学生は、Blender（3DCG アニメーションを作成アプリケーション）の基本機能をまなび、簡単なモデルを作ることができるようになる
 到達目標：①Blender の基本的な使い方を理解する
 ②独自のモデルを開発する

1. メタバースとは Blender でできること
2. Blender 環境構築
3. Blender の基本操作
4. モデルを作る

時数	授業内容	時数	授業内容
1	シラバスの説明・環境構築	19	家具のモデルを作る
2	メタバース開発における Blender	20	家具のモデルを作る
3	Blender 環境構築	21	家具のモデルを作る
4	Blender 環境構築	22	家具のモデルを作る
5	Blender の使い方・基本操作	23	キャラクターモデルとテクスチャペイント
6	Blender の使い方・基本操作	24	キャラクターモデルとテクスチャペイント
7	Blender の使い方・基本操作	25	キャラクターモデルとテクスチャペイント
8	Blender の使い方・基本操作	26	キャラクターモデルとテクスチャペイント
9	家のモデルを作る	27	キャラクターモデルとテクスチャペイント
10	家のモデルを作る	28	キャラクターモデルとテクスチャペイント
11	家のモデルを作る	29	キャラクターモデルとテクスチャペイント
12	家のモデルを作る	30	キャラクターモデルとテクスチャペイント
13	家のモデルを作る	31	リギングとアニメーション
14	家のモデルを作る	32	リギングとアニメーション
15	家のモデルを作る	33	リギングとアニメーション
16	家のモデルを作る	34	リギングとアニメーション
17	家具のモデルを作る	35	まとめ
18	家具のモデルを作る	36	まとめ

成績評価	実践評価 80% 受講態度10% 出席率80%以上 10%
------	----------------------------------

■各シラバス

	DX養成科目	区別	利活用コース ソリューション コース	時数	受講 人数	DX養成科目の概要	シラバス担当
5	ビジネス開発演習	実践編	利活用コース	36	10	ビジネスへの理解を深めるべく、ビジネスモデルの事例を知る。また任意の企業を選んで「経営とテクノロジーの活用」の観点からより深いビジネス分析をし、レポートにまとめる。	久保 堯之

ねらい： ビジネスモデルについて経営者視点での理解を深め、テクノロジーがどうビジネスに活かせるかを学ぶ

到達目標：①ビジネスモデルについて、具体例を踏まえて分析・説明することができる

②テクノロジーの進歩がビジネスモデル自体にどのような影響を与えていくのかが分かる

- イントロダクション
- ビジネスモデルを知る
- 事例調査・分析
- 全体まとめ

時数	授業内容	時数	授業内容
1	ビジネスモデルとは	19	テクノロジーとビジネスモデルの変化①
2		20	
3	飲食業のビジネスモデル	21	テクノロジーとビジネスモデルの変化②
4		22	
5	宿泊業のビジネスモデル	23	提案作成：分析対象とテクノロジーの可能性①
6		24	
7	小売業のビジネスモデル	25	提案作成：分析対象とテクノロジーの可能性②
8		26	
9	代理店・メディアのビジネスモデル	27	論文レポート制作のいろは
10		28	
11	その他のビジネスモデル	29	論文レポート制作①
12		30	
13	事例分析：実際の企業を分析する①	31	論文レポート制作②
14		32	
15	事例分析：実際の企業を分析する②	33	論文レポート制作③
16		34	
17	事例分析：実際の企業を分析する③	35	発表・相互レビューと振り返り
18		36	

成績評価 出欠・受講態度：40% ミニテスト&レポート：20% 論文レポート：40%

■各シラバス

	DX養成科目	区別	利活用コース ソリューション コース	時数	受講 人数	DX養成科目の概要	シラバス担当
6	セキュリティ診断実践	実践編	ソリュー ション コース	72	20	学生は、Webアプリケーションにどんな脅威があるのか、どうすれば安全なWebアプリケーションを開発することができるのかについて、実践を通じて学ぶことができる。	吉井 幸宗

ねらい：学生は、Web アプリケーションにどんな脅威があるのか、どうすれば安全な Web アプリケーションを開発することができるのかについて、実践を通じて学ぶことができます。
到達目標：セキュリティを意識した安全な Web サーバーの構築、および Web アプリケーションの開発ができるようになることを目標にします。

1. Web アプリケーションの脆弱性について学びます
2. Web アプリケーションを開発する際のセキュリティ対策を学びます
3. Web アプリケーションの脆弱性診断の業務内容について学びます

時 数	授業内容	講師	時 数	授業内容	講師
1 2	演習環境準備	吉井 幸宗/ 伴 芳龍	37 38	HTTP ヘッダ・インジェクション演習	吉井 幸宗/ 伴 芳龍
3 4	クロスサイトスクリプティング演習(1)	吉井 幸宗/ 伴 芳龍	39 40	メールヘッダ・インジェクション演習	吉井 幸宗/ 伴 芳龍
5 6	クロスサイトスクリプティング演習(2)	吉井 幸宗/ 伴 芳龍	41 42	クリックジャッキング演習	吉井 幸宗/ 伴 芳龍
7 8	クロスサイトスクリプティング演習(3)	吉井 幸宗/ 伴 芳龍	43 44	バッファオーバーフロー演習	吉井 幸宗/ 伴 芳龍
9 10	クロスサイトスクリプティング演習(4)	吉井 幸宗/ 伴 芳龍	45 46	その他の脆弱性(システム情報漏えい等)演習(1)	吉井 幸宗/ 伴 芳龍
11 12	クロスサイトスクリプティング演習(5)	吉井 幸宗/ 伴 芳龍	47 48	その他の脆弱性(システム情報漏えい等)演習(2)	吉井 幸宗/ 伴 芳龍
13 14	SQL インジェクション演習(1)	吉井 幸宗/ 伴 芳龍	49 50	Web アプリ脆弱性診断演習 脆弱性判定グループワーク(1)	吉井 幸宗
15 16	SQL インジェクション演習(2)	吉井 幸宗/ 伴 芳龍	51 52	Web アプリ脆弱性診断演習 脆弱性判定グループワーク(2)	吉井 幸宗
17 18	SQL インジェクション演習(3)	吉井 幸宗/ 伴 芳龍	53 54	Web アプリ脆弱性診断演習 報告書作成グループワーク(1)	吉井 幸宗
19 20	SQL インジェクション演習(4)	吉井 幸宗/ 伴 芳龍	55 56	Web アプリ脆弱性診断演習 報告書作成グループワーク(2)	吉井 幸宗
21 22	クロスサイトリクエストフォージェリ演習(1)	吉井 幸宗/ 伴 芳龍	57 58	無線通信のセキュリティ(1)	伴 芳龍
23 24	クロスサイトリクエストフォージェリ演習(2)	吉井 幸宗/ 伴 芳龍	59 60	無線通信のセキュリティ(2)	伴 芳龍
25 26	ディレクトリ・トラバーサル演習	吉井 幸宗/ 伴 芳龍	61 62	Web アプリ脆弱性診断演習	吉井 幸宗/ 伴 芳龍
27 28	OS コマンド・インジェクション演習	吉井 幸宗/ 伴 芳龍	63 64	Web アプリ脆弱性診断演習	吉井 幸宗/ 伴 芳龍
29 30	セッション管理の不備演習(1)	吉井 幸宗/ 伴 芳龍	65 66	成果報告グループワーク(1)	吉井 幸宗/ 伴 芳龍
31 32	セッション管理の不備演習(2)	吉井 幸宗/ 伴 芳龍	67 68	成果報告グループワーク(2)	吉井 幸宗/ 伴 芳龍
33 34	インシデント対応グループワーク(1)	吉井 幸宗/ 伴 芳龍	69 70	成果報告グループワーク(3)	吉井 幸宗/ 伴 芳龍
35 36	インシデント対応グループワーク(2)	吉井 幸宗/ 伴 芳龍	71 72	成果報告発表	吉井 幸宗/ 伴 芳龍

成績評価 出席 60%, テスト又は課題提出 40%

■各シラバス

	DX養成科目	区別	利活用コース ソリューション コース	時数	受講 人数	DX養成科目の概要	シラバス担当
7	AI・IoTとデータ実践	実践編	ソリュー ション コース	72	20	学生はデータを活用する一連の作業（データ収集・分析・モデル作成・評価）を実践する手法を学ぶ。	岩木 健 青木 振一

ねらい：学生はデータを活用する一連の作業（データ収集・分析・モデル作成・評価）を実践する手法を学ぶ
到達目標：①データ収集・分析に関わる手順と技術を実践する
②分析した結果をもとに、判断およびアクションの考え方を実践的に学ぶ

1. データ収集計画を立案する
2. 外部データをスクレイピング等で取得する
3. 典型的な手法でデータを分析する
4. 判断の考え方（感度、特異度）およびいくつかのアクションの実装方法を学ぶ

時 数	授業内容	時 数	授業内容
1	シラバスの説明・環境構築	37	データ収集の全体設計みなおし
2	データ収集の全体設計	38	データ収集の全体設計みなおし
3	IoT データ収集（1）	39	IoT データ収集（7）
4	IoT データ収集（2）	40	IoT データ収集（8）
5	IoT データ収集（3）	41	IoT データ収集（9）
6	IoT データ収集（4）	42	IoT データ収集（10）
7	IoT データ収集（5）	43	IoT データ収集（11）
8	IoT データ収集（6）	44	IoT データ収集（12）
9	クラウドへのデータ集積（1）	45	クラウドへのデータ集積（5）
10	クラウドへのデータ集積（2）	46	クラウドへのデータ集積（6）
11	クラウドへのデータ集積（3）	47	クラウドへのデータ集積（7）
12	クラウドへのデータ集積（4）	48	クラウドへのデータ集積（8）
13	データの連続収集と見える化（1）	49	データの連続収集と見える化（5）
14	データの連続収集と見える化（2）	50	データの連続収集と見える化（6）
15	データの連続収集と見える化（3）	51	データの連続収集と見える化（7）
16	データの連続収集と見える化（4）	52	データの連続収集と見える化（8）
17	データ収集と見える化のレビュー（1）	53	データ収集と見える化のレビュー（3）
18	データ収集と見える化のレビュー（2）	54	データ収集と見える化のレビュー（4）
19	欠損データ対策（1）	55	欠損データ対策（5）
20	欠損データ対策（2）	56	欠損データ対策（6）
21	欠損データ対策（3）	57	欠損データ対策（7）
22	欠損データ対策（4）	58	欠損データ対策（8）
23	回帰分析（1）	59	回帰分析（5）
24	回帰分析（2）	60	回帰分析（6）
25	回帰分析（3）	61	回帰分析（7）
26	回帰分析（4）	62	回帰分析（8）
27	分類・クラスタリング（1）	63	分類・クラスタリング（5）
28	分類・クラスタリング（2）	64	分類・クラスタリング（6）
29	分類・クラスタリング（3）	65	分類・クラスタリング（7）
30	分類・クラスタリング（4）	66	分類・クラスタリング（8）
31	判断とアクション（1）	67	判断とアクション（6）
32	判断とアクション（2）トリガー、通知	68	判断とアクション（7）トリガー、通知
33	判断とアクション（3）トリガー、通知	69	判断とアクション（8）トリガー、通知
34	判断とアクション（4）トリガー、通知	70	判断とアクション（9）トリガー、通知
35	判断とアクション（5）トリガー、通知	71	判断とアクション（10）トリガー、通知
36	中間まとめ	72	まとめ

成績評価 実践評価 60% 受講態度 30% 出席率 80%以上 10%

■各シラバス

	DX養成科目	区別	利活用コース ソリューション コース	時数	受講 人数	DX養成科目の概要	シラバス担当
8	動画制作・編集	応用編	利活用 コース	36	20	プロモーションの一環として日常的にSNSやYoutubeにアップする動画、企業プロモーションの一環としてSNSやYouTubeに掲載できる動画制作を行う。	柚上顕次郎

ねらい：企業プロモーションの一環として SNS や YouTube に掲載できる動画制作を行う
 到達目標：①動画の撮影のいろは、撮影時のコツについて習得する
 ②カットやトリム、BGM や効果音の挿入などの基本的な動画編集操作を習得する

- イン트로ダクション
- 動画撮影と編集のいろは
- 動画制作①②
- 全体まとめ

時数	授業内容	時数	授業内容
1	イントロダクション	19	動画制作②（撮影）
2	動画の重要性	20	
3	動画撮影・編集の基礎①	21	
4		22	
5	動画撮影・編集の基礎②	23	
6		24	
7	動画制作①（撮影）	25	
8		26	
9		27	
10		28	
11	動画制作①（編集）	29	動画制作②（編集）
12		30	
13		31	動画制作②（編集）
14		32	
15	動画制作①（発表と振り返り）	33	動画制作②（発表と振り返り）
16		34	
17	動画制作②（企画）	35	全体まとめと振り返り
18		36	

成績評価

出欠・受講態度：40% / 成果物（動画制作）：50%
 / レポート：10%

■各シラバス

	DX養成科目	区別	利活用コース ソリューションコース	時数	受講 人数	DX養成科目の概要	シラバス担当
9	ITビジネス基礎	基礎編	共通コース	36	20	これからはあらゆるビジネスの現場でテクノロジー（IT利活用）とマーケティングの力が不可欠となるため、その基礎を習得する。	青木 振一 久保 堯之

ねらい：これからはあらゆるビジネスの現場でテクノロジー（IT利活用）とマーケティングの力が不可欠となるため、その基礎を習得する。

到達目標：①社会におけるITの利活用の動向、構成要素や仕組み全般について習得し、説明することができる。

②マーケティングや経営の基礎について習得し、説明することができる。

1. イントロダクション：IT・マーケティングによる社会の変化とDX
2. IT基礎
3. ビジネス基礎
4. 全体まとめ

時数	授業内容	時数	授業内容
1	ファイナンス基礎① (資本主義と株式会社)	19	コンピューターがどういう構成で動いているかを知る
2		20	・ハードウェアとソフトウェア ・コンピューターを構成するいろいろな装置
3	ファイナンス基礎② (財務諸表と損益分岐点)	21	いろいろな用途のコンピューター
4		22	いろいろなアプリケーション
5	商流と物流	23	ネットワークはどうやってつながるかを知る
6		24	・ネットワークでの住所の決め方
7	社会の中の役割分担とビジネスモデル	25	無線LANはどうやってつながるか
8		26	・ネットワークにかかわる装置
9	経営戦略の考え方とPDCAサイクル	27	インターネットがどういう構成で動いているかを知る
10		28	・回線とプロバイダー
11	マーケティング基礎① (基本プロセス)	29	・Webのしくみ
12		30	・電子メールのしくみ
13	マーケティング基礎② (マーケティング変遷)	31	サイバーセキュリティとその脅威
14		32	・ウィルスとは ・不正アクセスとは
15	テクノロジーと経営・事業の発展	33	サイバーセキュリティとその脅威
16		34	・パスワードの作法・セキュリティ事故
17	テスト①（ビジネス分野）	35	テスト②（IT分野）
18		36	

成績評価	出席率および授業態度：40% テスト①：30% テスト②：30%
------	--

■各シラバス

	DX養成科目	区別	利活用コース ソリューション コース	時数	受講 人数	DX養成科目の概要	シラバス担当
10	SNS&PR実践 II	実践編	利活用 コース	36	10	企業活動および観光PR活動の一連の流れを実践的に経験することで、全体像を把握し、実践力を身に付ける。移り変わりの早いSNSのトレンドを掴みながら、デザイン画像も活用できること。	廣瀬 実華

ねらい：企業活動および観光 PR 活動の一連の流れを実践的に経験することで、全体像を把握し、実践力を身に付けること。また移り変わりの早い SNS のトレンドを掴みながら、デザイン画像も活用できること。

到達目標：①プレスリリース作成に慣れること。

②SNS のフィード投稿以外の機能を使いこなせること。

③簡単な制作物を作成出来るようになること。

- インTRODクシヨン（企業広報の役割と必須性・現状について）
- プレスリリース実践
- SNS の活用
- デザイン活用

時数	授業内容	時数	授業内容
1	INTRODUCTION （企業広報の役割と必須性・現状について）	19	SNS の活用⑥（実践）
2		20	
3	プレスリリース実践①	21	SNS の活用⑦（実践）
4		22	
5	プレスリリース実践②	23	SNS の活用⑧（実践）
6		24	
7	プレスリリース実践③	25	SNS の活用⑨（実践）
8		26	
9	SNS の活用①（トレンドを知る）	27	SNS の活用⑩（実践）
10		28	
11	SNS の活用②（実践）	29	SNS の活用⑪（実践）
12		30	
13	SNS の活用③（実践） デザイン活用①（実践）	31	SNS の活用⑫（実践）
14		32	
15	SNS の活用④（実践） デザイン活用②（実践）	33	最終レポート作成
16		34	
17	SNS の活用⑤（実践） デザイン活用③（実践）	35	最終レポート発表
18		36	

成績評価 出欠・受講態度：40% / 成果物：40% / レポート：20%

■各シラバス

	DX養成科目	区別	利活用コース ソリューションコース	時数	受講 人数	DX養成科目の概要	シラバス担当
11	テクノロジーと業務効率化	応用編	ソリューションコース	36	20	業務効率化の目的とゴールを学び、各種ツール実習をおこなう (OCR・RPA・リモート接続・クラウドデータアクセス管理ツールなど)	森田 典子

ねらい：学生は業務効率化の目的とゴールを学び、各種ツール実習を通じてその使い方を実践的に学ぶ
 到達目標：OCR ツールと RPA ツールの基本操作ができるようになり、双方のツールを連携して効率的に事務作業をおこなえることを実践する

1. 事務作業の概要とツール
2. OCR 操作
3. RPA 操作
4. OCR と RPA を連携した操作
5. まとめ

時数	授業内容	時数	授業内容
1	典型的な事務作業	19	OCR：基本操作（3）帳票設計
2	典型的な事務作業	20	OCR：基本操作（4）帳票設計
3	RPA：基本機能（1）	21	OCR：基本操作（5）帳票設計
4	RPA：基本機能（2）	22	OCR：基本操作（6）帳票設計
5	RPA：基本操作（1）記録・再生	23	OCR：基本操作（7）認識率向上対策
6	RPA：基本操作（2）記録・再生	24	OCR：基本操作（8）認識率向上対策
7	RPA：基本操作（3）変数化・文字列処理	25	OCR：例題実習（1）
8	RPA：基本操作（4）変数化・文字列処理	26	OCR：例題実習（2）
9	RPA：基本操作（5）検証・ログ格納	27	OCR：例題実習（3）
10	RPA：基本操作（6）検証・ログ格納	28	OCR：例題実習（4）
11	RPA：基本操作（7）操作分岐	29	OCR：例題実習（5）まとめ
12	RPA：基本操作（8）操作分岐	30	OCR：まとめ
13	RPA：基本操作（9）メール送信	31	例題実習（1）
14	RPA：基本操作（10）メール送信	32	例題実習（2）
15	OCR：基本機能	33	例題実習（3）
16	OCR：基本機能	34	例題実習（4）
17	OCR：基本操作（1）文字認識	35	例題実習（5）まとめ
18	OCR：基本操作（2）文字認識	36	まとめ、振り返り

成績評価	テスト又は課題提出 20% 実践評価 50% 受講態度 10%、 出席率 80%以上 10%
------	---

■各シラバス

	DX養成科目	区別	利活用コース ソリューション コース	時数	受講 人数	DX養成科目の概要	シラバス担当
12	阿蘇×DX II (プロジェクト型実践)	実践編	共通コース	36	20	DXやテクノロジー導入のケーススタディとして、現場観察・課題抽出から分析を行い、仮説を立てて検証を行い、ビジネスモデルと解決提案をまとめるという一連の行程を実践する	馬場 博史

ねらい：DXやテクノロジー導入のケーススタディとして、現場観察・課題抽出から分析を行い、仮説を立てて検証を行い、ビジネスモデルと解決提案をまとめるという一連の行程を実践する
到達目標：①問題解決のためにデジタル技術を利用した解決策提案ができる。
②デザイン思考・リーンスタートアッププロセスを用い自分の考えをまとめビジネスモデルして表現することができる

1. DXとはII
2. リーンスタートアップ・デザイン思考の概要とプロセス
3. 実習：プロジェクト実施
4. シェアと振り返り

時数	授業内容	時数	授業内容
1	DXのケーススタディ	19	PSF 検証ワーク
2		20	
3	解決策とDX	21	SPF、競合分析、UX 定義
4		22	
5	チームの課題を実現するイノベティブな解決策	23	SPF 検証ワーク
6		24	
7	イノベティブな解決策の方向性ワーク共有	25	PMF と MVP
8		26	
9	解決策コンセプト立案	27	MVP プロトタイプと PMF 検証
10		28	
11	アイデア発想<発散><収束>、コンセプトマッピングワーク 共有	29	ビジネスモデル
12		30	
13	リーンスタートアップ	31	ビジネスモデルワーク共有
14		32	
15	PSF、ソリューションの具体化、UVP ワーク共有	33	ストーリーテリング
16		34	
17	PSF 検証	35	ストーリーテリング演習
18		36	

成績評価	グループ課題演習 60%、 受講態度 30%、 出席率 80%以上 10%
------	--

■各シラバス

	DX養成科目	区別	利活用コース ソリューション コース	時数	受講 人数	DX養成科目の概要	シラバス担当
13	観光ビジネスDX (プロジェクト型)	実践編	利活用 コース	36	10	観光ビジネス(特に宿泊業とDMO)の現場において実際に使用されているITツールについて、その種類や役割、実際の使い方を習得する。	久保 堯之

ねらい：観光ビジネス(特に宿泊業とDMO)の現場において実際に使用されているITツールについて、その種類、役割、実際の使い方を習得する。

到達目標：①例示のITツール(OTA、PMS、行動データ分析)について、実際に活用ができる
②観光の現場へのDXツールの実装についてケーススタディを行い、評価できるようになる

- イントロダクション
- 事例1) 宿泊業のDX: OTAやPMSの活用による宿泊施設経営のデジタル化
- 事例2) DMOのDX: 観光地経営におけるデータの収集と分析手法
- ケーススタディ) 観光ビジネスの現場におけるDXツールの調査分析・評価
- 全体まとめ

時数	授業内容	時数	授業内容
1	イントロダクション	19	ミニテスト
2	観光の現場でのデジタル利活用	20	
3	宿泊業のDX: OTAとPMSとは	21	ケーススタディ: DXツールの市場調査①
4		22	
5	宿泊業のDX: OTAの運用手法	23	ケーススタディ: DXツールの市場調査②
6		24	
7	宿泊業のDX: PMSの運用手法	25	ケーススタディ: DXツールの導入検討①
8		26	
9	宿泊業のDX: その他のITツール	27	ケーススタディ: DXツールの導入検討②
10		28	
11	DMOのDX: 行動データの利活用の可能性	29	ケーススタディ: DXの提案①
12		30	
13	DMOのDX: 行動データの収集手法	31	ケーススタディ: DXの提案②
14		32	
15	DMOのDX: 行動データの分析手法	33	ケーススタディ: 発表
16		34	
17	DMOのDX: その他の観光データの収集と分析	35	全体まとめと振り返り
18		36	

成績評価	出欠・受講態度: 40%	ミニテスト: 20%	ケーススタディ発表: 40%
------	--------------	------------	----------------